

概観

【政治・社会】

- ・7回目の内閣不信任決議案否決。スタニシェフ首相は「野党は与党の政策に替わる代替策をもっていない」と演説。コストフ元首相（DSB野党右派）は、野党中道・右派勢力の連帯への決意を表明。
- ・パルヴァノフ大統領が、1月に発生したロシア産天然ガス供給危機以来はじめてロシアを訪問、補償問題、今後の類似の問題の再発防止について、メドベージェフ大統領等と協議。

【経 済】

- ・第4四半期のGDP成長率は3.5%（第2・3四半期はそれぞれ7.1%、6.8%）と大幅に減少。

【我が国との関係】

- ・ヴァルナ市眼科専門病院に診療器（眼底カメラ）を供与（草の根無償資金協力プロジェクト引渡式）
- ・「東ロドピ山トラキア美術博物館センター建設計画」博物館（建物）竣工・引渡式

この月報はブルガリア各種メディアの報道ぶり等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治・社会

◆7回目の内閣不信任決議案否決（26日）

- ▶野党右派UDF、DSB、BND、FORWARD及び無所属の議員が提出した内閣不信任決議案は、26日、賛成85票、反対148票で否決された。投票の結果が出た後、野党議員は議場から退席した。
- ▶スタニシェフ首相は、右結果を受け「ブルガリア人は、今やあらゆる分野で文字通り「欧州スタンダード」の社会生活を期待しており、政府には高い成果を挙げることを期待しているが、野党は連立与党に替わる有効な政策をもたない」と述べた。
- ▶野党DSB党首のコストフ元首相は、国民議会議場から退席した際、記者団に対し、「国民の信頼

を得るに足る中道・右派の幅広い連帯を形成できるよう、最大限の努力をする」旨述べた。

外政

◆パルヴァノフ大統領：ロシア訪問

（4～6日）

- ▶パルヴァノフ大統領夫妻がカルフィン外相等を始めとする約200名からなる代表団を伴ってロシアを公式訪問し、メドベージェフ・ロシア大統領、プーチン首相、ミロノフ上院議長、ルズコフ・モスクワ市長らと会談した。
- ▶5日のメドベージェフ大統領との会談後、パルヴァノフ大統領は記者団に対し、今次ロシア・ウクライナ間ガス供給問題に関し、類似状況の繰り返しを避けるための手段、及び今回発生した損害に対する補償等を協議した旨述べた。また、両者は、ブルガリアに対するロシア産ガス供給の代替

網の整備等、殊にサウスストリーム・パイプライン建設につき協議。メドベージェフ大統領は、「ブ」のベレネ原子力発電所建設を非常に重要視しており、工期通り完成させる旨述べた。5日、「パ」大統領はプーチン首相、ミロノフ上院議長とも会談。同日夜、「ロシアにおけるブルガリア年」周年行事をボリショイ劇場にて開催した。

▶6日、パルヴァノフ大統領はルズコフ・モスクワ市長と会談。ブルガリア・露ビジネスフォーラムを開催。フォーラムでは、ブルガリア・ワインの展示他、観光プロモーション等を実施した。

◆マケドニア大統領：ブルガリア訪問

(10日)

▶ツルベンコフスキ・マケドニア大統領がブルガリアを公式訪問し、パルヴァノフ大統領、スタニシエフ首相、ピリンスキ国民議会議長らと会談、欧州回廊第8号及びエネルギー分野での協力等につき協議した。パルヴァノフ大統領はマケドニアのNATO・EU加盟を支持する旨表明した。また、ツルベンコフスキ大統領は、4月に当国で開

経済

【経済】

1. マクロ経済

◆2008年のGDP成長率は6%

▶2008年下半期のGDP成長率は7年前と同水準まで落ち込み、2008年全体としては6%と予測値の6.4%から下方修正された。これまで金融危機からの影響は軽微であったが、大きな影響が数字となって現れたのはこれが最初となる。多くの専門家は、これはあくまでも長い不況の始まりでしかない指摘している。

▶ブルガリア工業連盟は2009年第1四半期の成長率を0%と予測しており、また中央自由戦略研究所のガネフ氏は2009年の成長率を4%と予測している。

◆2009年の外国投資額は半減すると予測

▶ボジュコフ・経済開発センター(CED)主任

催される首脳級エネルギー会合の提案を歓迎し、同会合に出席する旨表明した。

◆欧州委員会：ブルガリア司法・内務改革に関する中間報告 (12日)

▶同報告では、ブルガリアの汚職・組織犯罪対策における取り組みを一定評価した上で、内務省改革等への明確な措置が取られているものの、成果が未だ認識できるほどあがっていない点を指摘した。殊に、特別監視手段(SSM)の利用等に関して、透明な手続きの開発に引き続き取り組む必要がある旨を強調。ブルガリア政府は、同報告は公平かつバランスが取れた励みとなる旨表明した。

は2009年のFDIは前年比50%減の約30億ユーロと予測している。CEDは2009年の経済成長率を4%、インフレ率を最大で4%、失業率は10%以下と予測しているが、このままの状況が進めばデフレがブルガリア経済に与える影響はより深刻となろう。▶今後の対策としては、行政手続きを簡素化することにより、EUファンドをいかに消化するかが重要であり、外国投資誘致に向けた環境整備が必要と指摘している。

◆1月のインフレ率は7.1%

▶統計局の発表によると2008年の一人当たりの家計所得の伸びは11.1%(対前年同期比)であったものの、インフレ率が7.2%であったため、実質的な伸びは3.9%に留まった。最も大きな収入源は賃金であり、その割合は2.3%増え44.6%となった。なお次に

大きいのは年金となっている。2009年1月のインフレ率は前年同期比7.1%であり、2008年12月から0.8%の上昇となった。▶これは引き続き食品価格が1.9%と上がっている（なかでも野菜は15.6%と大きい）こと、また暖房費が16.8%上がったことが主な要因。

◆貿易赤字が197億レヴァに拡大

▶2008年の貿易赤字は前年から30億レヴァ増えて197億レヴァ（対GDP比26%）であったと統計局が発表した。しかし、11月、12月だけを見れば、前年よりその赤字額は減っており、金融危機の影響が見られる。「開かれた社会」のアンゲロフ氏は、こうした減少は投資財の減少によるものであり、経済への負の影響を与えるものと述べた。

◆対外債務が370億ユーロに増加

▶2008年のブルガリアの対外債務が約370億ユーロ（対GDP比108.4%）に増加したと中銀が発表した。金融部門における債務が最大で90億ユーロとなっている。民間部門の債務残高は326億ユーロであるのに対し、公的機関の債務残高は41億ユーロとなっている。エコノミストは高い対外債務と経常収支赤字が外的ショックへの脆弱性を増し、今後の外国投資の減少を警鐘している。

2. その他

◆ガス・パイプラインを新設

▶ブルガリアとルーマニアはルセ市とジュルジ

我が国との関係

◆ヴァルナ市眼科専門病院に診療器（眼底カメラ）を供与

（草の根無償資金協力プロジェクト引渡式）

▶ヴァルナ市眼科専門病院にデジタル眼底カメラを整備するための無償資金約3万ユーロを供与し、

ユ市を結ぶガス・パイプライン建設に関して合意したとブルガリア・エネルギー・ホールディング社が発表した。またEUではブルガリアとギリシャを結ぶネットワーク網構築に関し、約束していた2000万ユーロから倍増し5000万ユーロの拠出を決定した。ディミトロフ経済・エネルギー大臣によれば、本プロジェクトは約1億2500万ユーロとなる見込み。

◆GEが風力発電事業

▶ジェネラル・エレクトリック社は8億ユーロを投じ、ブルガリアの黒海沿岸に風力発電所の建設を検討しているとディミトロフ経済・エネルギー大臣が述べた。米国企業ではすでにAES社がプロブディフに2億米ドル規模の風力発電を進めている。

◆マリツア・イースト3火力発電所の改修工事が終了

▶イタリアのエネル社が保有するマリツア・イースト3火力発電所では、2003年から開始された改修工事（総工費7億ユーロ）がこの度終了した。今回の改修により、発電能力が840MWから908MWへと増強され、排煙脱硫装置も設置された。

2日、引渡式が行われた。右診療器の整備により網膜剥離などの眼底疾患の正確な診断が可能となり、同病院が地域の基幹病院としての機能が更に向上することが期待されている。

▶日本政府は、1998年よりブルガリアにおいて、草の根・人間の安全保障無償資金協力によるプロジェクトを実施、10年超の実施期間におけ

る供与実績総額は約220万ユーロを超えた。主な被供与団体は、地方自治体、病院、幼稚園を含む教育機関、孤児院などを含む社会福祉機関など計68件に及び、医療・保健、教育、社会福祉環境の改善や地元のイニシアティブによるプロジェクトに対し支援してきた。本件プロジェクトもまたブルガリアの医療・保健分野に対する貢献となっている。

◆「東ロドピ山トラキア美術博物館センター建設計画」博物館（建物）竣工・引渡式

▶13日、ハスコヴォ市東アレクサンドロヴォにて、竹田駐ブルガリア日本国大使及びダナイロフ文化大臣の列席の下、ブルガリア文化省国立文化財研究所に対して文化無償資金協力として実施された、ハスコヴォ市東ロドピ山アレクサンドロヴォ古墳の保存と研究支援のための341百万円（約286万6千ドル）規模の施設建設竣工に伴う博物館建物引渡式が執り行われた。

▶この美術館が研究展示対象とするアレクサンドロヴォ古墳（紀元前4世紀後半。2000年にな

って発見される）からは、壁画をはじめ考古学的にも貴重な遺物が発掘され、ユネスコ世界文化遺産への登録を目指しているが、残念ながら劣化が進んでおり、早急な保全・研究対策が必要だった。我が国は古墳の保全修復に係る研究促進、美術館の建設及び保全・研究・展示に必要な機材を支援した。

▶今後ボジダール・ヨノフ教授（国立美術アカデミー前学長）らの率いるブルガリア専門家チームが博物館の展示計画を策定・実現し、正式に博物館が開所することとなる。

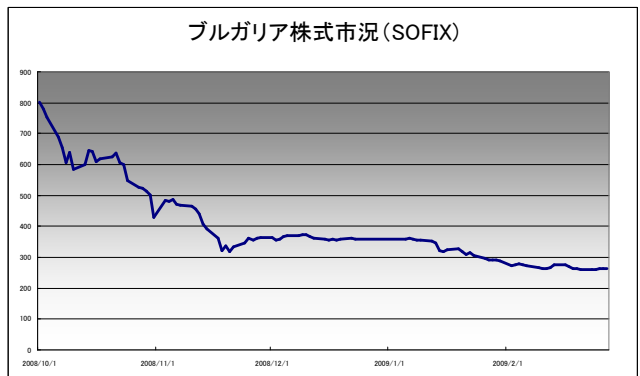
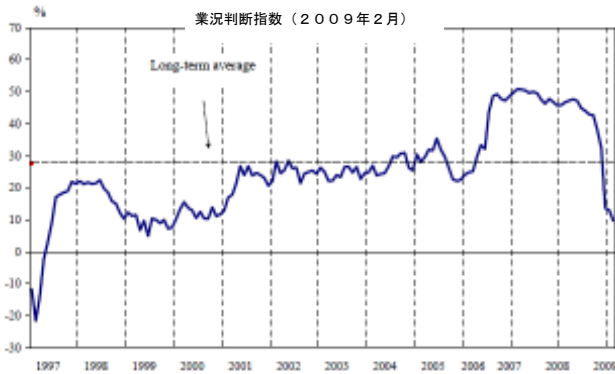
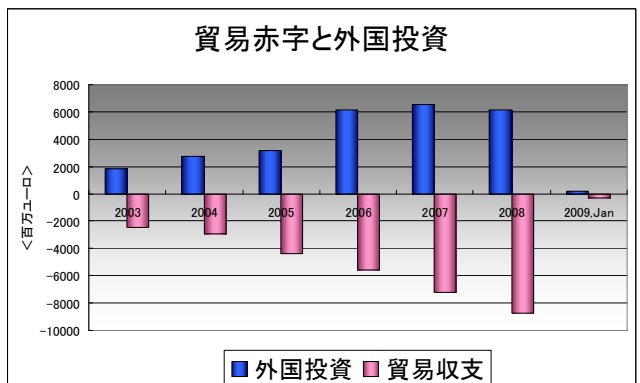
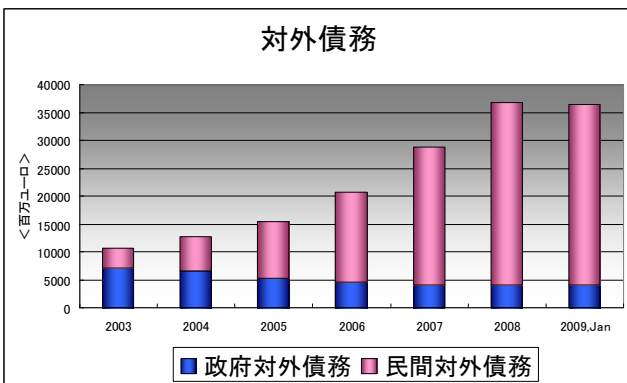
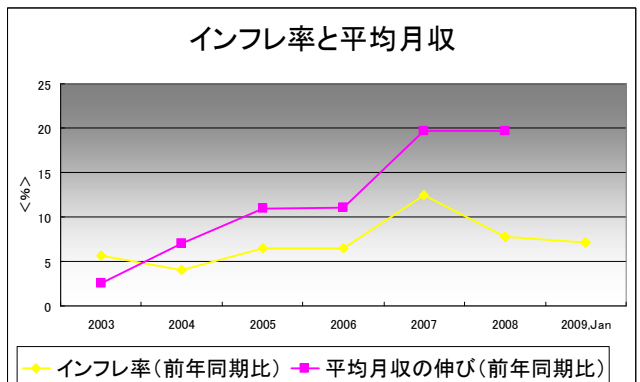
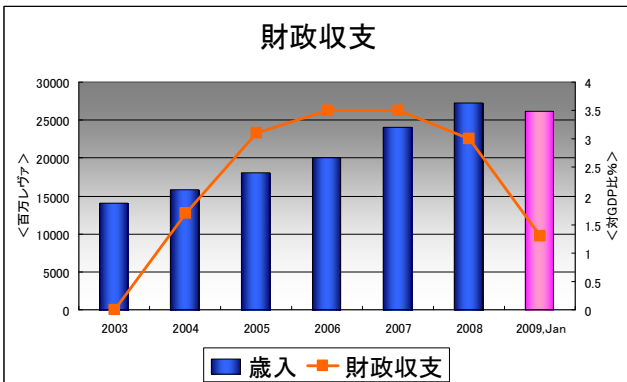
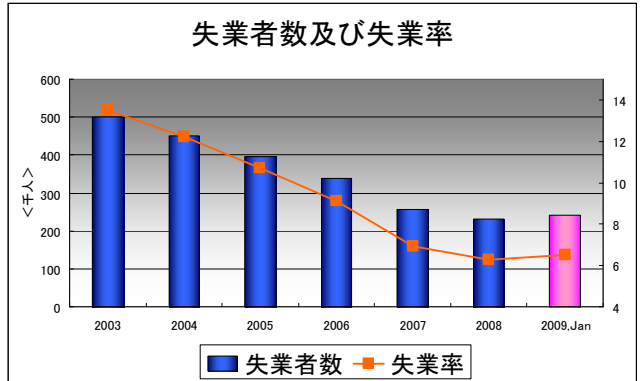
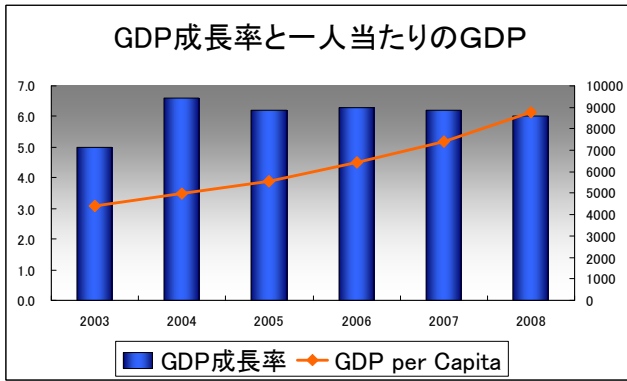
=====

ブルガリア内政・外交の動き（2009年2月）

在ブルガリア大使館

1（日）	
2（月）	☆スルール・エジプト議会議長：ブルガリア公式訪問。
3（火）	
4（水）	☆ツォネフ国防省：オバマ大統領主催第57回祈禱朝食会に参加。ゲーツ米国国防長官らと会談。ゲーツ長官は、「ブ」のイラク、アフガニスタンでの貢献に謝意を表明。両者は、両国軍事協力、共同軍事施設の在り方等につき協議。両国が引き続き対テロ等のNATOを含む国際貢献ミッションに貢献することを確認。 ☆パルヴァノフ大統領：ロシアを訪問（～6日）
5（木）	
6（金）	☆カルフィン外相：第45回ミュンヘン安全保障会議参加。（～8日）
7（土）	
8（日）	
9（月）	
10（火）	☆ツルベンコフスキ・マケドニア大統領：ブルガリア公式訪問（～11日）。 ☆カルフィン外相：ケニア（12日）、南アフリカ（13日）、ナミビア（15日）、ナイジェリア（16日）、ベナン（17日）、セネガル（19日）を歴訪し、ハイレベル政務協議を開催。ボコヴァ次期UNESCO事務局長候補を帯同し、同人への支持を要請。
11（水）	
12（木）	☆欧州委員会：ブルガリアの司法・内務分野における進展に関する中間報告発表 ☆ピリンスキ国民議会議長：スロバキア訪問（～13日）。
13（金）	●連立与党3党党首協議開催：司法・内務改革の推進で合意
14（土）	
15（日）	
16（月）	☆EPP党首ウィルフレッド・マーティン：ブルガリア訪問。本年のブルガリア総選挙でボリスフ・ソフィア市長を首相とする強い右派内閣成立を期待する旨表明。
17（火）	
18（水）	●野党、内閣不信任決議案を提出
19（木）	
20（金）	
21（土）	
22（日）	
23（月）	
24（火）	●ミコフ内相：4月以降に1,100名の警察官のレイオフ実施を表明
25（水）	☆パルヴァノフ大統領：ブルガリア大統領として初の伊公式訪問（外交関係樹立130周年）。伊の対ブルガリア直接投資継続の重要性、サウス・ストリーム建設計画に対する支持を確認。
26（木）	●内閣不信任決議案否決
27（金）	☆ピリンスキ国民議会議長：EU議会関連会合参加（パリ）（～28日）
28（土）	

ブルガリア経済指標（2009年2月）



出所：統計局、中銀、ソフィア証券取引所